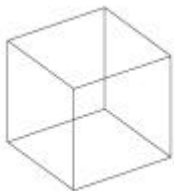
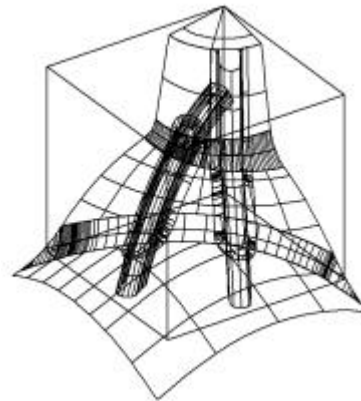


(3) general/ = 一般機能

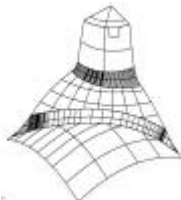
icondrft = icon draft (アイコンの設計図)

部品をアイコンで表示させます。アイコン表示によって、部品を簡単に選択することができます。但、視点は「元」に統一されます。(外部ファイルの部品のみ表示されます。)

まず、部品が作成済みのファイルを開きます。
ここでは講習で使ったm 8 を例にして、4つの部品を作成しました。



部品：HAKO



部品：MODEL



部品：RIB



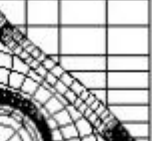



部品：FILET

ユーザー	general/
-	icondraft
-	作業中パーツファイル
続けますか?	はい
-	作成
メニュー定義	
行 = 4 列 = 3	
(アイコンを表にする時の行数と列数を指定)	
プロンプト域を <指示> 又は <CR>	
(作業が終わったら、 終了 を指示)	
パーツファイルに戻る	はい

これで、このパーツファイルの部品のアイコンは出来上がりました。

この部品を、他のファイルから配置で呼び出すと、右のアイコン表が表示されます。

 FILET	 HAKO	 MODEL
 RIB		

mverify = multifarious verify (多種の要素の確認)

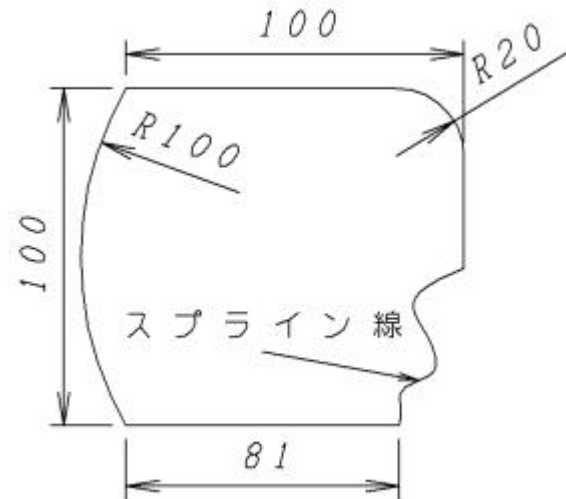
複数の要素の(面は除く)データを、解析します。(要素の種類とその数、ID番号、座標値等)

右図を例にしてみます。

ユーザー	general/
- mverify	
要素指定し<終了>	
<サブメニュー>	全
	<終了>

下に、どの要素がいくつ有るかメッセージが表示されます。

- ファイルに保存
<CR>で次へ
タイプ/ID
プロンプト域を <指示> 又は <CR>
座標系選択
モデル を指示
ファイル名を入力
(<CR>で、 <u>mver.dat</u> と名前が付きます。又は、好きな名前を入力します)
<CR>
<終了>



mver.dat ファイルを開いてみます。

Points = 点

Lines = 直線

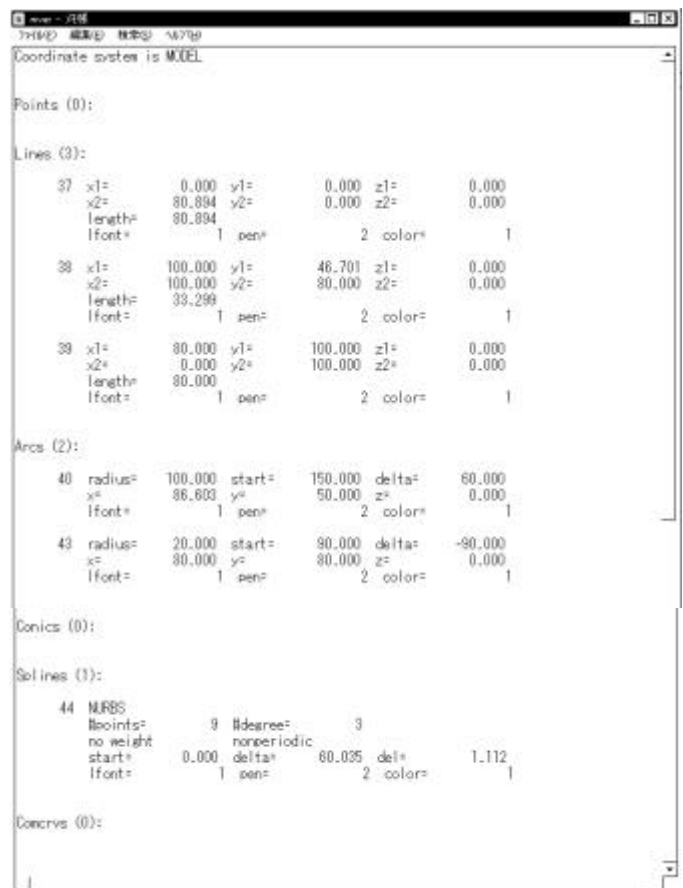
Arcs = 円弧

Conics = 円錐曲線

Splines = スプライン線

Comcrvs = 複合曲線

() 内の数字は要素の数、段落の最初の数字が、ID番号。



`rgnlinat` = regulation line attribute

ビューでの線属性修正の機能です。

通常、ビューでの線属性の変更はモデル領域には影響しませんが、このコマンドで線属性を変更すると、モデル要素も同時に変更されます。

使用方法については、汎用機能コマンドの線属性とほとんど同じ形になります。

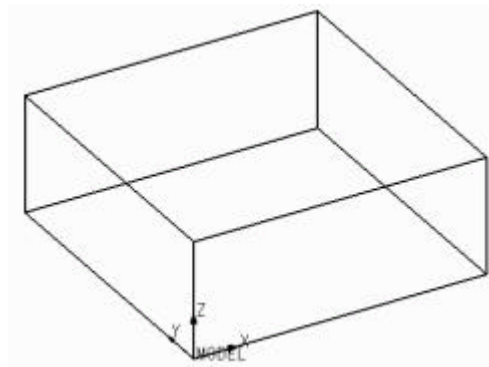
smbypln = symbol by plane

平面上の要素を、部品として作成します。

但し、**部品**のコマンドと違ってその要素が**直接部品**となります。(M13141等、Mを先頭に自動で名前が付きます。)

部品になった元の要素を要素分解すると、作成した部品との関連はなくなります。

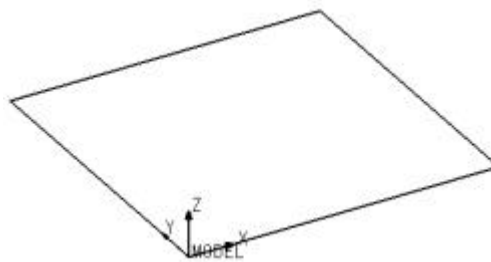
ユーザー	general/
- smbypln	
平面定義/終了	[有効]
要素指定し<終了>	
<サブメニュー>	[全]
	<終了>



底辺の要素が直接部品となるので **要素分解**しておきます。

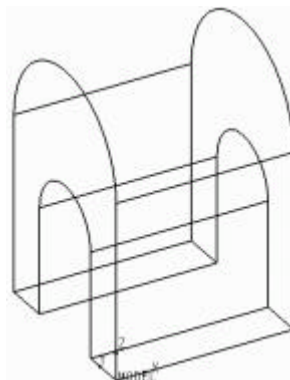
上の図を **[全]** で選択しても部品としては、平面上の要素のみになります。

要素分解	
<CR>で次へ	
全構成要素 元のレイヤへ	
元要素=内部部品 全段階	
プロンプト域を <指定> 又は <CR>	
要素指定し<終了>	
(部品要素を選択)	
<終了>	



同様に別モデルをYZ平面で指定してみると、右の部品が出来上がります。

ユーザー	general/
- smbypln	
平面定義/終了	拡張座標
座標系指定/終了	YZ平面
	<終了>
要素指定し<終了>	
<サブメニュー>	[全]
	<終了>



モデル



部品

出来上がった部品を配置してみます。

配 置

<CR>で次へ

内部 部品名入力

プロンプト域を <指定> 又は <CR>

作成された部品名が表示されます。部品名は M x x x x と自動的に作成されます。

配置する部品名を指示します。（画面の視点は ISO ）

位置指示

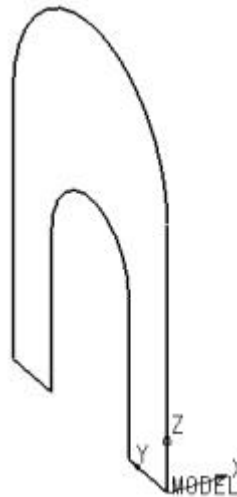
点 - 角度 倍率=1.000

軸消し 角度=0.000

ミラーなし 平面定義

<サブメニュー> 座標原点

配置する部品



次に平面定義をYZ平面で指定してみます。

配 置

プロンプト域を <指定> 又は <CR>

位置指示

点 - 角度 倍率=1.000

軸消し 角度=0.000

ミラーなし 平面定義

（平面定義 を指示）

平面定義: YZ平面

<終了>

<サブメニュー> 座標原点

部品持っているのXY平面を、指定した有効平面に配置するので、部品の表示される平面はZX平面になります。



次に平面定義をZX平面で指定してみます。

配 置

プロンプト域を <指定> 又は < C R >

位置指示

点 - 角度 倍率=1.000

軸消し 角度=0.000

ミラーなし 平面定義

(平面定義 を指示)

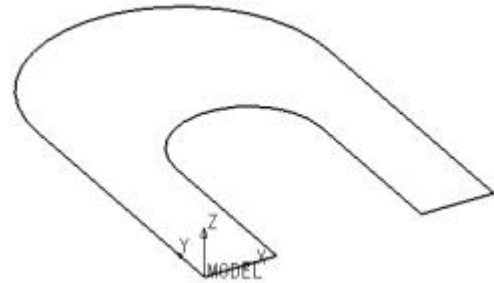
平面定義:

ZX平面

<終了>

<サブメニュー>

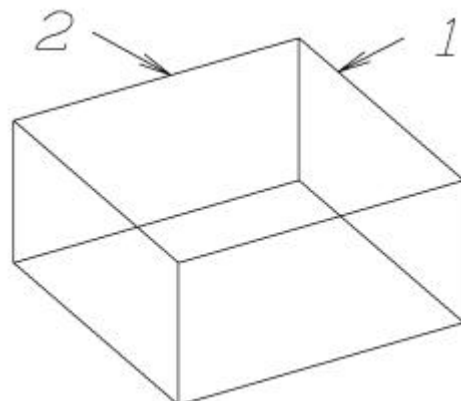
座標原点



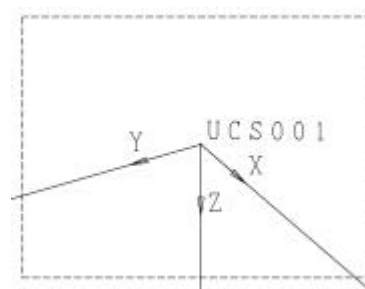
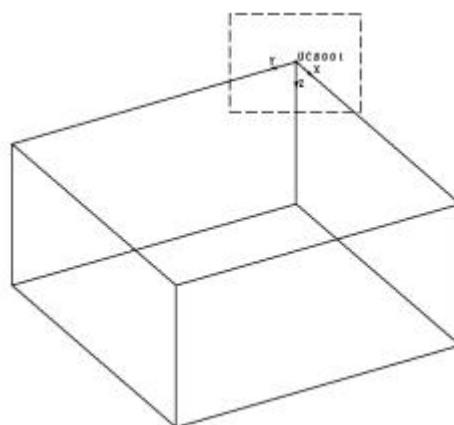
`ucs_auto` = `ucs_automatic`

交差した 2 本の直線を指定して、座標を作成します。

ユーザー	general/
-	ucs_auto
X軸方向の直線指定	(1)
Y軸方向の直線指定	(2)
座標系を作成?	はい



作成された座標の名前は、UCS001 ~ UCS999 となり、作成できる座標系の数は 9 9 9 個までです。



[] 内拡大図

`units` = `unit`

パーツファイルで使用している長さの単位を変更します。

ユーザー	general/
-	units
単位 (mm)	
(カッコ内の表示が現在の単位 です。変更したい単位をクリ ックします。)	

画面の下にメッセージが表示されます。

単位をmmからcmへ変更しました